

しろくしま つうしん



© @ butabulo

教育・学校統廃合問題

なんて、とてもワクワクしませんか？

私自身が立ち止まって見直すことを宣言しました。その理由ですが、児童の数が減ってきていること、統合しないと1クラスあたりの人数が減り過ぎてしまい、教育面でも支障が出ることなど、私も理解しています。しかし、山ノ内中学校の敷地は狭い上、世界情勢の影響で建設コストが跳ね上がっている現状で、本当に何十億円もかけて新しい建物を建設するのか？学校の中身についての議論が不十分の状態、急いで建物だけ建てる計画を進めていいのか？その順序を変えて、もっと議論してほしいと思っています。

竹内教育長には、まずは魅力のある教育方針、わざわざ引越してきたくなるほど魅力(中身)のある小学校のプランを作してほしい、そのうえで、その具現化のために、どこに小学校があるべきなのか？という議論にしてほしい、とお願ひしてあります。

観光局と教育について

みなさんこんにちは！しろくま町長(ひらさわがく)です。志賀高原も開山祭が行われ、これから夏真っ盛りですね。この四季があるのも日本の良さですね。皆さんも熱中症に注意してくださいませー！

さて、6月は議会が開催され、一般質問では10名の議員さん達から、さまざまな質問や意見をいただきました。中には観光関連や、教育についての課題や方向性、2年後の山ノ内町70周年イベントなど、幅の広い質問をいただき、意見を交わしました。

観光局(DMO)設立に向けて

山ノ内町の観光・PRを一本化するために、山ノ内町観光局(仮称)を設立したく、この夏に設立準備室を立ち上げます！

この観光局(仮称)は稼げるDMO(※観光地域づくり法人)*1)を目指します。機能として

は、現在の観光商工課が行っている観光関連業務を将来的に引き継ぐこと、各観光協会や旅館組合、索道協会などしっかりと連携し、山ノ内町を国内外にプロモーションしていく窓口になる！ことです。同時に、湯田中駅や道の駅での観光案内所などの整備も観光局(仮称)が中心となり改善していきます。

実はこの観光局設立プランは、平成16年に当時の中山町長が、若手職員たちと一緒に作った「自立のためのマスタープラン」にも記載されていました。山ノ内町が中野市と合併しない道を選んだ直後に作られたもので、このマスタープランには観光局の他、観光アカデミーや総合型スポーツクラブ、PFI(※2)の仕組みを取り入れた町営住宅案、地域通貨の活用など、今の山ノ内町が実行したい内容がすでに描かれているのです。

20年も前にすでにそんなビジョンを我が町が持っていた

ませんか？」「ALT24名(1校あたり3.4人)」と、先進英語教育小中学校をアピールしています。これからの世代は英語が喋れて損はありません。英語は子ども達の世界を広げます。

私はこの山ノ内町の小中学校も、町内外へはつきりと伝わるような魅力をもった学校にするべきだと思っています。もちろん今行われているESD教育*3)も素晴らしいと思います。町としては今年度中に方向性を決めるためにも議論をしていきたいと思っています。

「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する地域経営の視点に立った観光地域づくりの司令塔として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための法人。

*2 PFI:プライベート・ファイナンス・イニシアティブ。公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法。

*3 ESD: 持続可能な開発のための教育と訳される。持続可能な開発を実現するために発想し、行動できる人材を育成する教育。

教育功労者に勲記と勲章が授与されました

令和5年度に88歳を迎え、学校教育として学校教育の振興に貢献し、特に功績が顕著であった教育功労者2名に対して勲記と勲章が授与されました。

- ・受章者 石田 茂
- 元山ノ内町立西小学校長(平成5年4月から平成7年3月末まで)
- ・受章者 清水 照雄
- 元山ノ内町立東小学校長(平成4年4月から平成7年3月末まで)

※()は、町立学校長在職期間(敬称は省略)

◀写真 東小学校での伝達式の様子(左から清水照雄さん、竹内教育長)

清水さんは、学校教育として36年間子ども達のために教育を施され、平成4年4月から3年間、26代目の東小学校長を務めました。

